

日時：2016年3月5日（土）13：30～16：30

場所：山梨大学 東京リエゾンオフィス

出席者：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、尾見康博、加藤司、松田英子、山崎晴美、
北村英哉、中村真

委任：小塩真司、荒川歩

日本パーソナリティ心理学会第119回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」第24巻第3号

3月現在、予定通り、最終稿を作成中。3月中に出版予定。印刷版よりWeb版を早めに公開する方針で作業を進めている。

(2) 「パーソナリティ研究」第25巻第1号

1月下旬の編集委員会の協議を経て、以下のとおりの論文の掲載が決定し、国際文献社に入稿した。予定通り、2016年7月出版予定。

	題目	筆頭者	受稿	採択
ショート	多次元恋愛関係嫉妬尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	神野雄	2015/6/23	2015/12/4
原著	中学生の友人に対する信頼感と学校適応感との関連	中井大介	2014/4/24	2015/12/17
原著	SNS上での自己情報公開を規定する心理的要因	太幡直也	2015/7/5	2015/12/24
原著	マインドフルネスとwell-beingと注意の制御の関連	高田圭二	2014/11/5	2015/9/17
原著	物語への移入尺度日本語版の作成と信頼性および妥当性の検討	小山内秀和	2015/8/1	2015/12/25
ショート	女子大学生における親への愛着がキャリア発達におよぼす影響	木川智美	2015/10/12	2016/1/5
原著	講義中のマインドワンダリングに対する意図的抑制とネガティブな気分の関係	服部陽介	2015/10/4	2016/1/5
ショート	高いSense of Coherenceを持つ者のライフスキルの特徴と構造に関する探索的検討	嘉瀬貴祥	2015/9/27	2016/1/9
原著	児童期後期の不注意および多動性・衝動性と抑うつとの関連—両親の養育要因と自尊感情に着目して—	齊藤彩	2015/8/24	2016/1/13

(3) 審査状況

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取下	返却	投稿時不採択
11	0	19	22	0	0	1	0
12	4	19	20	5	0	5	1
1	8	15	20	2	1	0	0
2	3	10	16	1	1	0	0

(4) 論文採択後、出版に向けてのシステム化

国際文献と協議を重ね、紙媒体でのやり取りを減らし、システム化（電子化）を進めており、今後も、さらなる電子化を検討中であるとの報告があった。

(5) 取り下げ論文に関して

第24巻第3号に掲載が決定された論文の筆頭者からの取り下げ要望を受け、編集委員会で協議し、常任理事会のML会議を経て、取り下げを承認したとの報告があった。編集委員より、厳しい意見も出た（査読の労力と掲載費用に関する意見）ことをふまえて、以下のような対応案が示された。

機関誌「パーソナリティ研究」掲載論文の訂正および取り下げに関する内規に、「7 取り下げにかかる費用を、上記に合わせ第一著者が負担する。」という文言を加える。ただし、当該論文に関しては、これを適用しない。審議の結果、承認された。

(6) サラミ論文の疑いのある論文に関して

第24巻第3号掲載予定であった論文に関して、重要な情報開示を欠いたサラミ論文の疑いがあるため、1月下旬から2月上旬にかけての編集委員会の審議を経て、第24巻第3号への掲載を見送ることにしたとの報告があった。編集委員からは、「掲載を見送るべき（掲載不可）」、「再審査とすべき」「シュートレポートとして再審査とすべき」など、厳しい意見が出ていることも報告された。

今後の対応に関して、以下の提案があった。

①当該論文に関して

編集委員長と投稿者とのやり取りを通じて、必要な加筆や修正を加えた後、加筆・修正に応じた場合には掲載する（掲載号は未定）。ただし、加筆・修正に応じない場合は、編集委員長の判断に一任する。

②今後の対策のため

編集規程に下記の文言を加える（可能なら投稿時のチェック欄にも加える）

*第14条 論文に虚偽の記述あるいは重大な情報の未記載が発覚した場合、採択あるいは掲載決定後であっても、当該論文を撤回する場合がある。その際にかかる費用は著者の負担とする。

審議の結果、提案の趣旨は承認されたが、文言の修正が必要であることを申し合わせた。今後、文言を修正したうえで、あらためて常任理事会 ML 審議で承認を得ることを申し合わせた。

(7) 機関誌超過費用の徴収の実施に関して

編集規程第7条「超過分の印刷費用は著者の負担とすることがある」をふまえ、投稿者の

公平性を考慮し、第 25 巻第 1 号より、原著 10 頁、ショートレポート 2 頁を超える論文に対し、1 頁 5 千円を徴収することが提案された。

審議の結果、承認された。併せて、この件を査読者にも伝達する必要があることを申し合わせた。

(8) 編集委員会決算報告・予算請求

2015 年度決算、2016 年度予算案について報告があり、継続審議とすることを申し合わせた。

2 経常的研究交流委員会（荒川委員長欠席、資料を配布）

経常的研究交流委員会の報告事項・審議事項については、時間の都合により今回は資料の配布にとどめ、継続審議とすることを申し合わせた。資料の概要は以下の通り。

(1) 大会でのソーシャルランチ企画の可能性について

経常的研究交流委員長より、会員間の交流の更なる促進のために、第 25 回大会における総会が行われない日の昼食時に、ソーシャルランチとして、参加者に、サンドイッチ 1 つ程度を提供して、2 回程度席替えをしながら、簡単なグループワークをするという企画の可能性について検討してほしい旨の依頼があった。予算規模は 400 円×50 人として、20,000 円を想定。受付等の窓口は、経常的研究交流委員会で対応する。

(2) 共同研究プラットフォームの創出支援

経常的研究交流委員長より、本学会会員の多くが共通して利益をえるような共同研究のプラットフォームを委員会の主導で構築できないかとの提案があった。たとえば、「学会主催大規模共同調査の内容・方法検討部会」「パーソナリティ測定の新技術検討部会」「パーソナリティと社会問題検討部会」のような部会を経常のもとに創設し、会員が誰でも参加可能なものとして参加を募り、参加者の中から座長を議論の調整役として互選で選んでもらい、委嘱し、年間 3 万円程度（つまり年に一人か二人外部の方を呼んだ際の謝金を想定）の予算で、内容的には、個別的な研究を推進するのではなく、全体像を示すものを考えている旨の説明があった。

(3) 経常的研究交流委員会の Twitter アカウントによる情報発信

経常的研究交流委員長より、大会・学会企画、ウェブ更新情報の発信の他、*Journal of Personality* の論文のアブストラクト（毎号 10 本程度、年 6 号）の一部を日本語で簡単に紹介すること、同様に、パーソナリティ研究に掲載された情報についても発信することを検討している旨の報告があった（予算は 0 円）。

(4) 2015 年度決算、2016 年度予算案

2015 年度決算、2016 年度予算案について報告があり、継続審議とすることを申し合わせた。

3 広報委員会（松田委員長）

(1) ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が説明された。

(2) 大会関連

YPP2016

- ・大会前日（9月13日）に開催予定であることが報告された。
- ・次のメンバーで担当する
担当常任理事：松田英子（東洋大学）
担当広報委員：加藤 仁（名古屋大学）、佐藤史緒（東洋大学）、仲嶺 真（筑波大学）、
福沢 愛（関西学院大学）
世話人：檜原潤（東京大学）、池江咲耶（北星学園大学大学院）、田村紋女（広島大学
大学院）、三和秀平（筑波大学大学院）

(3) 今後の活動予定（継続を含む）

- ・ウェブサイトの更新、メールニュースの配信（随時）
- ・委員分担コンテンツの更新（毎月）
- ・YPP2016の準備

(4) 2015年度決算、2016年度予算案

2015年度決算、2016年度予算案について報告があり、継続審議とすることを申し合わせた。

4 国際交流委員会（小塩委員長欠席、資料を配布）

国際交流委員会の報告事項・審議事項については、時間の都合により今回は資料の配布にとどめ、継続審議とすることを申し合わせた。資料の概要は以下の通り。

(1) 第25回大会企画

- 講演（90分？）
パーソナリティ特性と心理的健康 Perosnality traits and health
Dr. Antonio Terracciano（フロリダ州立大学准教授）
<Abstractを問い合わせ中>
- ワークショップ（120分？）
パーソナリティ特性と身体的健康 Personality traits and physical health
司会：堀毛一也（東洋大学）
講演：Dr. Angelina Sutin（フロリダ州立大学）<Abstract 問い合わせ中>
研究発表：
榊原良太（東京大学大学院）「成人の感情制御特性と心身の健康」
川本哲也（東京大学大学院）「成人のパーソナリティ変化と身体的健康」
西田裕紀子（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター）「人生後半期のパーソナリティと身体的健康：15年間の長期縦断研究（NILS-LSA）より」
コメンテーター：Dr. Antonio Terracciano
企画趣旨
パーソナリティは抽象的な構成概念であるが、近年では生活に密着した様々な行動や活動、そしてそれらの結果に結びつくことが明らかにされている。本ワークショップでは、特に身体的な健康に焦点を当てる。実際の研究知見に基づきながら、パーソナリティと身体的健康とのかかわりについて考察を深める。

※以上の招聘に関わる予算について具体的な説明があった（一部は、第 118 回常任理事会で承認済み）。これとは別に、追加予算として、英文校閲費用（英語 web ページおよびその他用）を計上していただきたい旨の要望があった。

(2) 英語 web ページ

- 現在作業を進行中。

(3) 日本社会心理学会第 57 回大会との共催依頼について（別紙参照）

日本社会心理学会第 57 回大会準備委員長より、同大会の準備委員会企画ワークショップ（Antonio Terracciano 博士が登壇）をパーソナリティ心理学会との共催で行いたい旨の要望が寄せられたとの報告があった。

(4) 2015 年度決算、2016 年度予算案

2015 年度決算、2016 年度予算案について報告があり、継続審議とすることを申し合わせた。

5 学会活性化委員会（山崎委員長）

(1) 委員構成

委員長：山崎晴美 副委員長：藤田圭一

委員：陶山 智、中谷陽輔、森 津太子、矢澤美香子（必要に応じて増員していく予定）

(2) 第 24 回大会優秀大会発表賞の件

優秀大会発表賞決定の 4 件について、筆頭者の受理の意思を確認したとの報告があった。

(3) 第 25 回大会優秀大会発表賞の件

審査は昨年度の手続きに沿って行うので、今後大会が近づいた時点で、理事の方々に審査の依頼を行うことを申し合わせた。

(4) 活動方針について

学会活性化委員長より、今後の活動について、①大会の運営、②優秀大会発表賞のあり方、③学会活性化（大会企画、研修会および研究支援を含む学会企画による研究の活性化）の観点から基本方針案が示された。

理事長より、学会活性化委員会の主たる活動は大会の活性化であり、大会活性化を優先して取り組んでもらいたいとの意向が示された。これをふまえて、今後は、第 26 回大会（2017 年度）において支援可能なプランを学会活性化委員会で検討し、次回以降の常任理事会で提案してもらうことを申し合わせた。

(5) 2015 年度決算、2016 年度予算案

2015 年度決算、2016 年度予算案について報告があり、継続審議とすることを申し合わせた。

6 学会賞選考委員会（北村委員長）

学会賞選考に関する申し合わせ事項が提案され、審議の結果、承認された。また、学会賞選考委員として、4人の候補者が提案され、審議の結果、承認された。申し合わせ事項は以下の通り。なお、学会ホームページにアップする常任理事会議事録には、学会賞選考委員の氏名を掲載しないことを申し合わせた。

学会賞選考に関する申し合わせ事項

1. 学会賞選考委員会は、理事から1名以上を委員とする。
2. 委員は、委員長を除いて標準を5名とする。
3. 第1次選考において投票を行う場合は、委員長を除く委員が投票を行い、委員長は必要な裁定を行うこととする。
4. 第1次選考にあたり委員長は必要に応じて編集委員会での審査内容を知り得るものとする。
5. 第1次選考において、審議、投票の方法は委員長が提案し、委員の承諾を得るものとする。
6. 第1次選考の結果、候補論文をおのおの3本程度とし、第2次選考に委ねる。
7. 第1次選考が得点化されている場合には、その結果の内容を第2次選考に送ることとする。
8. 第1次選考は、6月末頃に決めることを目途とする。
9. 学会大会以前の常任理事会において第2次選考を行う。

今後の作業予定：まず理事会 ML に、学会賞審査予定を通知し、「パーソナリティ研究」第24巻3号発刊の後、理事から学会賞、奨励賞の推薦を受け付けることを申し合わせた。なお、理事のメールアドレスは事務局長から学会賞選考委員長に伝達することとし、理事への推薦依頼および推薦受付については学会賞選考委員長が行うことを申し合わせた。

III 日本心理学諸学会連合

1 日心連理事会報告（渡邊理事長）

2015年12月20日に行われた定例理事会の要点（日心連の一般社団法人化、本学会の藤田副理事長が心理学検定局長に就任）について報告があった。

2 心理学検定について（藤田副理事長）

平成28年度の心理学検定を8月21日（日）に実施するとの報告があった。

IV 「クロスロード・パーソナリティ」シリーズ刊行について（北村常任理事）

前回（第118回）常任理事会での報告をふまえて、これまでの経過が報告された。

V 第25回大会準備状況について（北村大会準備委員長）

- ・Web申込受付を開始したこと、早割の適用は3月末締切（支払いは4/7まで）であることが報告された。
- ・賛助会員が出展する際に出展料を割り引くなどの対応は、大会主催校の裁量とすることを再度申し合わせた。

VI その他
特になし。

審議事項

I 会則改訂の件（事務局住所の追記について）

- ・学会の銀行口座をオンライン化する際に事務局住所を会則に明記しておく必要があるため、次回常任理事会でこれに伴う会則改訂案を事務局長から提案することを申し合わせた。
- ・渡邊理事長より、理事長に事故がある場合は副理事長がこれを代行することを会則に明記することが提案され、次回常任理事会でこれに伴う会則改訂案を理事長から提案することを申し合わせた。

II 第 118 回常任理事会議事録承認に関する件

審議の結果、誤字を訂正し、学会賞選考委員の氏名を非公開にすることを申し合わせたうえで承認された。

III 「日本パーソナリティ心理学会 20 年史」の送付状況について

宛先不明 2 人分を事務局長が預かっており、引き続き、宛先調査を行うことを申し合わせた。

IV 会員の入退会に関する件

事務局より、別紙の通り、新入会希望者 12 名（うち 9 名は ML 審議にて承認済み）、退会希望者 4 名の一覧が示され、審議の結果、承認された。また、宛先不明者が報告された。

以上の承認を受けて、2016 年 2 月 29 日現在、会員総数は 907 名である。（内訳は、一般会員 637 名、院生会員 255 名、学生会員 6 名、名誉会員 7 名、賛助会員 2 名。） ※ 今回審議対象の新規入会希望者 3 名は含まれない。

V ICP2016 の寄附・展示・広告の件

審議の結果、今回は行わないことを申し合わせた。

VI 2015 年度予算・決算、2016 年度予算の件（財務に関する今後の方針を含む）

尾見財務担当常任理事より、以下の通り、会計制度見直し(案)、謝金・交通費等支払額基準(案)が示された。また、2016 年度予算(案)、財務上の課題が示された。

併せて、会計業務を国際文献社に外注した場合の費用も示された。そのうえで、渡邊理事長から、会計業務を 30 万円程度の費用で外注する方向で国際文献社と交渉してはどうかとの基本方針が提案され、審議の結果、承認された。引き続き、尾見財務担当常任理事に国際文献社との交渉を含めて検討してもらうことを申し合わせた。

(1) 会計制度見直し案

- 年度当初に各委員会に配分する方法をあらため、必要に応じてその都度委員会を經由せ

ずに振り込む。おそらくこのことにより、各委員会の会計担当は不要になる。

(透明性の確保及び、マイナンバー導入等税務関連制度変更への対応)

- 原則として、実費後払いとする。
- この改訂に伴い会計業務の多くを外注する。

(2) 謝金, 交通費等支払額基準案

■交通費・宿泊費(上限 1 万 2 千円)は実費とする(非会員も含む:航空券は実費:後日振込払い)。会合のために交通費が発生することがあらかじめわかっている各理事・委員には住所とともに経路と費用を年度当初に提出していただく。

■シンポジウムなど

非会員:謝金 2 万円, 海外からのゲスト: 5 万円, 大会参加費と交通費は実費

会員:謝金は「なし」, 交通費は大会時以外実費

委員:交通費は大会時以外実費

※講習会講師など負担の大きいものについては、謝金として+ 1 万円(会員非会員とも)

※日当は支給しないこと。

※宿泊費や高額な交通費は極力避けること。

- ◎上記基準に準じない場合には常任理事会(財務担当ではない)の許可を得ること。
- ◎すでに謝金額も前提として動いているものについては、その進行を妨げることはしない。
- ◎次年度事業から、今年度までとは異なることを周知徹底する。

VII 国際文献社等との各種契約の件

国際文献社より次年度の契約の見直しについて、別紙の通り提案があったが、VIの審議事項の通り、現在、会計制度見直し(会計業務の外注を含む)を検討中であるため、引き続き、渡邊理事長、尾見財務担当常任理事および中村事務局長が連携して、国際文献社との各種契約についても対応し、最終的には常任理事会 ML での承認を得たうえで契約を締結することとする。

VIII 次回常任理事会日程について

今回は、6月に予定されている日心連理事会に合わせて開催の予定。具体的な日時は、渡邊理事長、藤田副理事長と相談のうえ、事務局長から連絡することを申し合わせた。